

リンゴ黒星病の子のう胞子飛散は 展葉期～落花 20 日後頃に多い

福島県農業総合センター 果樹研究所 病害虫科

- 1 部門名 果樹－リンゴ－病害虫防除
- 2 担当者名 小松健太郎、藤田剛輝、渡邊善仁、日下部翔平
- 3 要旨

リンゴ黒星病の病原菌は罹病落葉で越冬し、春までに子のう胞子を形成して一次伝染源となる。2022 年～2024 年に子のう胞子の飛散消長を調査した結果、展葉期から落花 20 日後頃まで飛散があり、当該時期が重要防除時期であることが確認された。

- (1) 2022 年の初飛散は 4 月 2 半旬、飛散盛期は 4 月 4～5 半旬（図 1）、2024 年の初飛散は 4 月 1 半旬、飛散盛期は 4 月 2 半旬と 5 月 2 半旬（図 2）であった。
- (2) 子のう胞子の成熟度や降雨条件によっては、展葉初期から開花直前の間に飛散盛期が確認される場合もあることから、展葉初期からの薬剤防除を徹底し、落花 20 日後頃まで防除間隔を空けないよう注意する。なお、胞子の飛散は降雨後に確認されるため、降雨前の予防散布を徹底する。

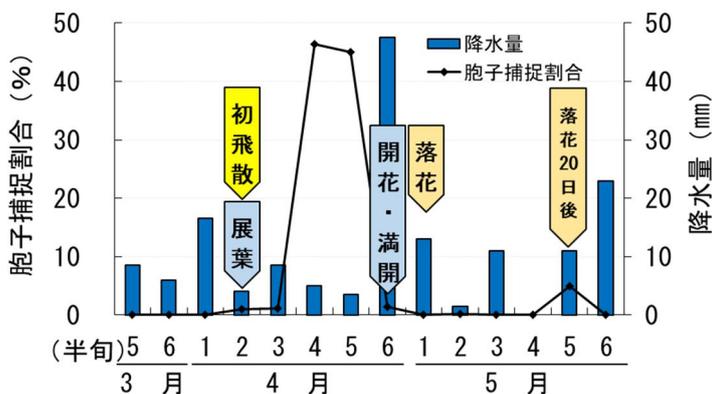


図 1 会津坂下町におけるリンゴ黒星病子のう胞子の飛散消長（2022 年）
胞子捕捉割合：3～5 月までに捕捉された胞子の総数に対する捕捉数の割合

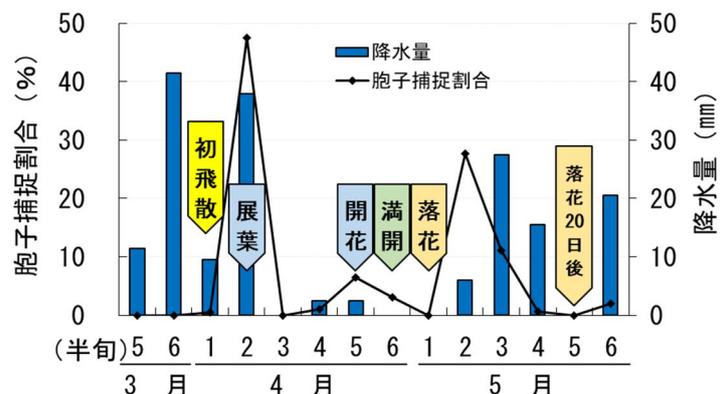


図 2 会津坂下町におけるリンゴ黒星病子のう胞子の飛散消長（2024 年）
胞子捕捉割合：3～5 月までに捕捉された胞子の総数に対する捕捉数の割合

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和 3～7 年度
- (2) 研究課題名 果樹病害虫の防除法改善

5 主な参考文献・資料

なし